
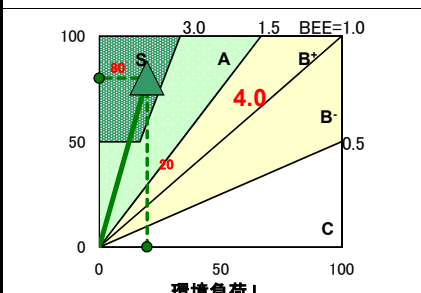
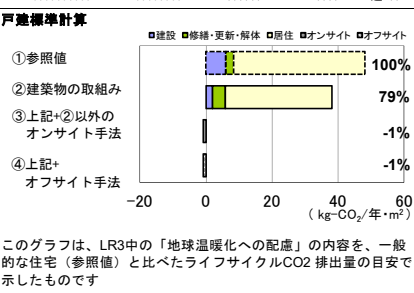
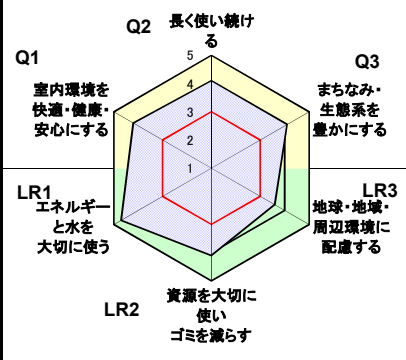
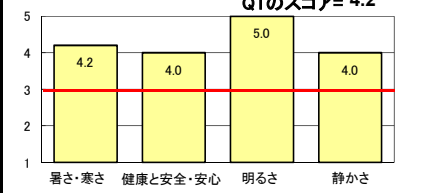
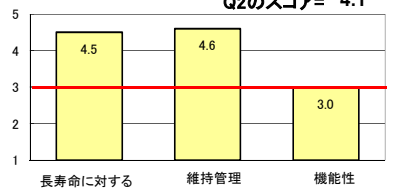
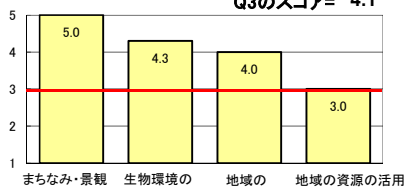
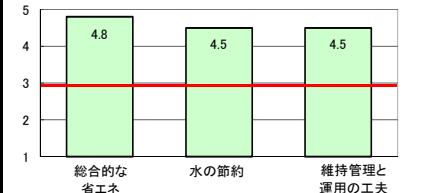
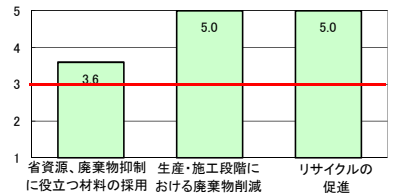
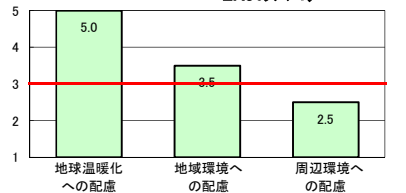


1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	町田市相原町B2棟新築工事	仕様等の確定状況	建物の仕様	確定	
竣工年月	2017年12月 竣工	建物の仕様	持ち込み家電等	仮	
建設地	東京都町田市相原町215-7	建物の仕様	外構の仕様	確定	
用途地域	第一種低層住居専用地域	<備考>			
省エネルギー地域区分	6地域	評価の実施日	2018年5月15日		
構造・構法	木造・在来工法	作成者	五光ハウジング株式会社 石山辰巳		
階数	2	確認日	2018年5月15日		
敷地面積	138 m <sup>2</sup>	確認者			
建築面積	55 m <sup>2</sup>				
延床面積	110 m <sup>2</sup>				
世帯人数	4				

2-1 戸建の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 4.0</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★★★★ C: ★</p> 	<p>☆☆☆☆☆ ~0% ☆☆☆☆☆ ~50% ☆☆☆☆☆ ~75% ☆☆☆☆☆ ~100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>戸建標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p>  <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 長く使い続ける</p> <p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</p> <p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</p> <p>LR1 エネルギーと水を大切に使う</p> <p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</p> <p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</p> 

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q のスコア = 4.2</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</b></p> <p>Q1のスコア= 4.2</p>  <p>暑さ・寒さ 健康と安全・安心 明るさ 静かさ</p>	<p><b>Q2 長く使い続ける</b></p> <p>Q2のスコア= 4.1</p>  <p>長寿命に対する 維持管理 機能性</p>	<p><b>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</b></p> <p>Q3のスコア= 4.1</p>  <p>まちなみ・景観 生物環境の 地域の 地域の資源の活用</p>
<p><b>LR のスコア = 4.2</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギーと水を大切に使う</b></p> <p>LR1のスコア= 4.7</p>  <p>総合的な省エネ 水の節約 維持管理と運用の工夫</p>	<p><b>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</b></p> <p>LR2のスコア= 4.1</p>  <p>省資源、廃棄物抑制 生産・施工段階に役立材料の採用 における廃棄物削減 リサイクルの促進</p>	<p><b>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</b></p> <p>LR3のスコア= 3.6</p>  <p>地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>居住者が建物を長期間利用できるよう、耐久性や維持管理容易さ、快適な住環境を目指した。また、住宅で使用するエネルギーを太陽光発電とエネファームにて賄い、蓄電池やHEMSIにて効率的に利用することにより、住宅が使用する一次エネルギーの消費削減など、環境に与える負荷が小さい建物である。</p>	<p><b>その他</b></p>	
<p><b>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</b></p> <p>自然採光、通風等も考慮しており、優れた断熱性、適切な冷暖房設備で快適な室内環境を保てる。</p>	<p><b>Q2 長く使い続ける</b></p> <p>耐震等級3、劣化等級3等、長期間の仕様に耐えられる材料や仕様を採用する。維持管理などにメンテナンスの容易さ、維持管理が可能な情報提供を用意している。</p>	<p><b>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</b></p> <p>敷地内の緑化に取り組み、街並みに配慮した生垣を採用した。</p>
<p><b>LR1 エネルギーと水を大切に使う</b></p> <p>高い断熱性能で、冷暖房エネルギーを抑えており、水栓等を節水タイプを採用し節水に努めた。また、太陽光発電とエネファームで創エネルギー図っている。</p>	<p><b>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</b></p> <p>構造材のプレキャスト納材等で、産廃物の削減している。また、リサイクル材、再生可能材の積極的な採用を図っている。</p>	<p><b>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</b></p> <p>浸透枳の採用によるインフラ負荷の低減や、敷地内の緑化を図り環境への負荷を軽減に努めている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (環境品質), L: Load (環境負荷), LR: Load Reduction (環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (環境効率)  
 ■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE-戸建(新築)の場合、BEE<sub>H</sub>、Q<sub>H</sub>、LR<sub>H</sub>などとするべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q<sub>2</sub>、LR<sub>1</sub>中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)  
 ■ライフサイクルCO<sub>2</sub>の算定条件等については、マニュアルおよび「CO<sub>2</sub>計算」シートを参照されたい